



新春特別編

九州の逸品

KYUSYU NO IPPIN

FILE No.41



九州の「地域ブランド」を
ご紹介致します。

福岡

博多曲物

はか
た
まげ
もの

博多曲物とは、杉や檜の薄い
板材に熱を加えて曲げ、板の端
を桜の皮で綴じて作られた容器
のことをいいます。

今回は新春特別編として、博
多曲物師、18代・柴田玉樹氏の
技と生き方に迫ります。



弁当箱だえん

杉の木目をいかした弁当箱。
炊きたてのご飯を入れてもベタつかず、
おいしいご飯が保てる

家業400年

曲物は永い間、庶民の暮らしになくなくてはならない用具だった。昭和の初めまでの馬出（福岡市東区）は、古い街道の両側に町家が連なり、柴田、西田、東郷など二十数軒が曲物をつくっていたという。なかでも柴田玉樹の家は、当代で18代を重ねてきた。

父・玉樹と曾祖父・庄吉

柴田家は初代・吉右衛門以来、代々長男が後を継ぎ、吉右衛門、伊右衛門の名前を順に名乗ってきた。ところが17代を継ぐはずだった伊右衛門が戦争で亡くなったため、次男の玉樹（17代）が後を継ぐことになる。昭和7年（1932年）生まれの玉樹が本格的に曲物づくりの道に入ったのは20代の半ば。16代も早くに亡くなったため、

17代の父は曲物づくりを祖父の15代・庄吉（昭和31年没）に学んでいる。「木取りも曲げも、そばで見て覚えるしかない」スタートだった。

つくれば飛ぶように売れた時代、父は数をこなすことで腕を磨き、昭和56年（1981年）、福岡市の無形文化財「博多曲物」の技術保持者に認定される。さらに、蓋置と菓子器が一級の茶道具として認められ、工芸品として全国に知られるようになるのである。

父の死

18代・柴田玉樹（本名・真理子）は、そんな曲物師の次女として生まれ、杉や檜の香りのする作業場で遊びながら育った。小学生のときから姉の妙子といっしょに仕事場の掃除や簡単な作業を仕込まれ、18歳で母を亡くしてからは、家事もこなしながら父の傍らで曲物

をつくり、絵付けも任された。結婚後も作業場に通い、会社を切り盛りし、体調のすぐれない父に代わって曲物づくりに励んだ。

頑固でわがまま。絵に描いたような職人だった父は、肺がんを患い、平成7年（1995年）、64歳で急逝する。知人の保証人になり、多額の負債を背負って会社が倒産、家も仕事場も失った心労がたたったのだろう。規模を縮小しても曲物づくりだけは続けようとしていた矢先だった。

マイナスからの出発

父が亡くなったとき、代々続く家業を守り継ぐと決意する。だがそのとき、倒産したことで社会的な信用を失った家はどん底状態、自身は長男を産んだばかり。女であることも手伝って、材料の仕入れもままならなかった。

じつは一度、生前の父に「私がやろうか」と言ったことがあった。返事は「男（長男）がおるとに、男ば差し置いてなんばいいようとか。



上.店先に積み上げられた博多曲物と15代・柴田庄吉。手元の火鉢も曲物である／下.仕事中的父、17代・柴田玉樹



左、(手前)蓋置&なつめ、(奥)煙草盆・角。小物入れなど多用途に使える／右、香合。本来は香木を入れるための器だが、アクセサリ入れなどにも好適

お前は嫁に行くっちゃろうが」だった。25歳の正月、集まった親戚の前で「後ば継ごうかねえ」と言ったときにも、「女になんばできるか、つてぼろくそ言われた」のだという。しかし、いずれ継いでから、と手伝いの中であまり教えられていなかった長男は別の道を選んだ。

「ここで止めるわけにはいかない」。一度は揺らいだ決意を固めさせたのは、17代続いてきた家業の重さと、20歳のころから本格的に修業してきたという自負だった。

父の四十九日の法要で出した一輪差しが、親戚の目を変える。「これだけ作りきるならよか」。柴田家の18代として認められた瞬間だった。

福岡空港にほど近い志免町に工房を移し、軒に宮崎宮飾職を示す注連縄を巡らして曲物と向かいあう日々が始まる。

「横で黙って見ているだけ。しか

も、何も教えてくれないのに失敗すれば怒る」父から教わっていたのは、木の表裏の見分け方だけだった。「私に継がせるつもりがなかったから、教える必要もなかったはず」だからである。

木目を見ることができるようになるだけでも10年はかかる。一日、手がコツを覚え、自然に動くようになるまでどれくらいの時間が必要だっただろう。数をこなすことで腕を磨いていったのは、父と同じだった。

それから14年。日本民芸展への入賞や、京都の漆絵作家との共同制作、展示会など意欲的な活動を続け、平成19年(2007年)に「玉樹」を襲名した柴田家18代の周囲には、「女だから」という声はもうない。

近ごろ、仕事中の姿が父に似てきたと言われる。「やっぱり親子やけんねえ」と笑う。

◀◀◀ 博多曲物のできるまで





左.前菜やデザートにの器としても使える博多曲物／右.ポッポーお膳。幼児のお食い初めや七五三などに健やかな成長を願って使う祝い膳

急がず、逆らわず

木を薄い板にし、熱湯で煮て柔らかくして曲げ、乾燥させて桜の皮で綴じ合わせる。曲物の工程は至って単純だ。しかし、押さえるべきところを押さえないと、文字通り売り物にならない。一工程一工程、手も気も抜けないのが曲物づくりなのである。

博多曲物の原材料は、目が詰まり、まっすぐに伸びた「無節柾目」が約束事。原材料を見極める目は必須である。木は割って見れば育った土地の陽当たりのよし悪しや、こまめに枝打ちされたか、手を掛けて育てられたかといったことまでわかるという。

昔はどんな木工品でも近隣の原材料を使った。博多曲物の場合は若杉山の杉と檜だったが、大木が希少になった現在では国内産のものを吟味して使う。取り寄せた原材料は

すぐに使えるわけではなく、最低でも1年は自然乾燥させる。後で煮るから構わないだろうと素人には思えるが、一度きちんと乾燥させないと出来上がりの寸法が違ってくるという。ここまでの時間を経て、ようやく手の仕事が始まる。

おおまかに製材し荒削りしてから、つくるものに応じた厚さにする。削りながら色や木目の流れを読み、その原材料のどこをどう使うかを決めていく。板を煮るとき湯をつねに循環させて、原材料から出たアクが再び木地に戻らないようにする。柔らかくした木は、いち、にの、さんで曲げ、巻木を外したら「ふわっと力をいれて」かたちを整える。流れるように続く一連の作業は、まるで木をあやしているようだ。

父が元気なとき、お櫃を一度に50個つくったことがある。丸くつくったつものそれは、できてみれば全部楕円だった。それを見て、

1.つくるものに依じて側板の長さを決め、断裁する／2.表面を削る作業を繰り返し、つくるものに依じた薄さに仕上げる／3.煮立った湯に側板を浸け、アクを抜きながら10～30分ほど煮る／4.5.巻木に杉板を素早く巻きつけて曲げ、端を重ね合わせる／6.合わせ目を木挟ではさみ、かたちを整える／7.日陰で4～5日間乾燥させる／8.重なる部分に糊を塗り、乾いたら孔をあけて桜の皮で綴じる



二百年かけて育った木から
いのちをもらい、
四百年の技で
かたちを与える。
「使って喜ばれるものを」
職人の思いは
いつの時代も変わらない。



父はぼそりと「きれいにならんめえが」と言ったという。いま同じものをつくったら合格点をもらえるだろうか。それとも…永く続く「家業」とはそこにいてもいなくても、つねに父や祖父の背中を見ながら仕事をする事、なのかもしれない。

🌸 伝統を継ぐ者として

曲物の最盛期は大正から昭和の初めにかけてだった。戦後、その状況は激変する。プラスチック製品と炊飯ジャーの登場によって、曲物は容器としての用途をほとんど失ったといってもいい。曲物を「まげもん」と呼ぶ博多っ子も減り、茶道具とやっぱりこれなくてはという愛着に支えられて、いのちをつないできた。

その空気が少しずつ変わってきている。例えば、最近、市内の幼稚園

から園児用の弁当箱の注文を受けた。小さなころから「本物」に触れさせたいから、という。

塗りを施さない博多曲物は軽くて通気性がよく、ご飯が傷みにくい。杉そのものにも殺菌効果があるといわれ、優れた機能性で弁当箱として永く愛されてきた。だがその前に、「小さな子どもたちに、素木の木肌の手触りや、ほのかな木の香りの心地よさを知ってほしい」と思う。小さなころから身近にあつてこそ、曲物への愛情が育つと思うからだ。

長く作り継がれてきた博多曲物の「ポッポーお膳」もそうだ。博多の子どもは、このお膳の前に座ることで、七五三や正月などの特別な日の喜びや、自分が大切な存在であることを、知らず知らず教えられて育ったものだ。

博多曲物の魅力を少しでも広く伝えられたら。父が任されていた

「『博多町家』ふるさと館」での実演を引き継いだのも、そんな思いからだ。全国各地から訪れる観光客に日用の道具であること、丁寧に使えば十年二十年はもつことを博多弁で語っている。

🌸 風土に根差し、伝統を創る

神事から庶民の日々の暮らしまで、曲物はじつにさまざまな場面で使われてきた。自然からもらったままの色は目にやさしく、なめらかな手触りとほのかな木の香は、ほっと心を寛がせる。古式ゆかしい神事でも、こだわりの料理でもてなす食事処でも、すんなりとその場に溶け込み、用の具として役割を果たすその姿には流行りのモノにはない鮮度がある。

風土に根差したモノは、時代を超え。「新しい伝統」は、多分、そこからしか生まれない。

博多曲物 玉樹

住所：福岡県粕屋郡志免町別府西2-2-16
市営地下鉄・福岡空港駅から徒歩15分

電話番号：092-935-5056

営業時間：平日 10:00～17:30

※土日祝日は基本にお休みですが、営業している場合もあります。お越しの際には事前にお電話いただけると幸いです。

<https://magemono.com>



左.博多曲物のワインクーラー／右.博多曲物のDVDケース。会社の創立・周年記念のDVDケースで注文が多い